



広島から対馬へUターン

都会を離れて地方で暮らす人の流れは、近年、人生の選択肢の一つとして定着してきています。対馬にも毎年、多くの人が移住しています。生まれ育った故郷対馬へ帰る人、思い描いた暮らしを実現するために対馬を選ぶ人。様々な理由で対馬へ移住した方の目線は、対馬に住む私たちにとって、新しい魅力を見つけるヒントになるかもしれません。今回は、峰町でお好み焼き屋を営む、山本さん一家をご紹介します。



山本 真也さん

山本 チカさん

山本 莉子ちゃん

お好み焼き食堂
がやがや

本場広島の味を再現

広島のお好み焼きで欠かすことのできない、麺と天かすを取り寄せるこだわりのお好み焼きを、客の目の前に置かれた幅約2mの大きな鉄板で調理するのは、この店を切り盛りする美津島町賀谷出身の山本チカさん。食材を返すだけでなく、混ぜたり、切ったり、すくったりと2本のヘラを巧みに操る姿は、まるでマジックショーを見ているよう。注文が重なった時は、20枚近くを一度に焼くことができるそうで、その姿を見たお客さんから拍手が上がることも。



常連さんから「ヘラだけで生活してそう」と言われるほど見事なヘラさばき



チカさんが調理、真也さんが接客を担当し、夫婦二人三脚で店を切り盛り

いつかは対馬に帰りたい

高校まで対馬で育ったチカさんは、何かモノを作る人になりたいと、卒業後は食に関わる道へ進みます。福岡でのパン屋を皮切りに、各地で食に関わる仕事を重ね、縁あって広島でお好み焼きの修行をすることになり、広島有数の観光地、宮島のお好み焼き店で働いていました。

「修行をしたお店は広島でも人気のお店で、毎日たくさんのお客さんが訪れます。そんな環境で修行させていただくことで、最終的に20枚を一度に焼ける技術を身に付けることができ、一人前と認められました。」と話すチカさん。

お好み焼き職人として忙しい日々を送っていたころ、広島出身の夫真也さんと出会い結婚、出産を機に対馬に戻ろうと決心しました。

そして、チカさんは「対馬の自然の豊かさや人の温かさは唯一無二で、子どもを育てるなら、そんな対馬がいい!と、ずっと思っていました。そこで産休中に対馬へ戻る決意をし、夫とともに対馬へ帰ることにしたんです。」と話します。

対馬で子育てをしたいと考えていたチカさんは、同時に『対馬にないものを持って帰りたい』という、高校卒業後、対馬を離れる時に抱いていた思いを実現すべく、お好み焼き屋を対馬で開くことを決意しました。

対馬へのUターン、子育て、店づくりに奔走

「妻は、良く言えば行動力がある、言い換えるとおてんばです。」と話す夫の真也さん。生まれ育った地元を離れるのには葛藤があったものの、妻の強い思いと、趣味の釣りが存分にできるという期待が勝り、移住を決意しました。3人は対馬へ来て、移住、育児、そしてお店の開業に向けた準備と、怒涛の日々を送りながら、昨年、峰町にオープンさせました。店名には、たくさんの人たちが集ってワイワイガヤガヤしてほしいという思いに、生まれ育った賀谷をかけて「お好み焼き食堂 がやがや」としました。



閉店した本屋のスペースに開店したお店



子連れでも利用しやすい店づくり

子育てで感じた経験も活かした店づくり

「本土のフードコートや飲食店には、授乳室など子どもと一緒にお店を利用してもらいやすい工夫があるけど、対馬のお店にはほとんどなくて…」と話すチカさん。お店には、授乳室や子ども用のいすや食器などを置き、子連れでも気兼ねなく利用してもらいたいという、経験を活かした店づくりに取り組んでいます。

試行錯誤の毎日

「広島のお店は、観光地のど真ん中であって、焼いてすぐに食べてもらえる環境でした。しかし対馬でお店を始めた当初はそうではなくて、、、お客様から指摘を受けることもありました。」と話すチカさん。住民や観光客など人が多い地域への出店ではなく、上対馬や下対馬に移動する途中に寄ってほしいと、対馬の中央で店を始めたことで、開店当初はほとんどの注文がテイクアウトでした。そのため、時間が経過したり、容器に入れたりすることで変化する味や食感に悩まされました。

「普段から、季節によってキャベツの切り方や生地的配合を調整して、ベストな状態で食べてもらえるようにはしているのですが、さらにテイクアウト用には、焼き時間や具材のバランスなどを工夫して、冷めてもおいしいように研究と改良を繰り返して、お客様に満足してもらえる商品づくりを目指しています。お客様で評判は良くなり、テイクアウトでおいしかったからと、今は店舗に足を運んでいただくお客様も多くなりました。」と話すチカさん。本場広島の味を対馬のどこでも感じることができるよう、日々進化を続けています。



注文して、施設内のほかの店舗で買い物して受け取る人も多い



仕事終わりの1杯は、明日への活力の1杯

鉄板を囲んだ憩いの場所

お昼時になると、昼食休憩のサラリーマンや韓国からの観光客でなくなる店内は、昼過ぎからは、周辺の漁業者の人たちで賑わいます。古藤直也さんと福山康成さん(写真左から)は、ほぼ毎日通う常連さんで「定置網の仕事は朝が早く、昼過ぎはオフの時間。鉄板を挟んで、チカさんや真也さんと話しながら料理やお酒を飲むと、いろんな話ができてとても楽しいです。二人の人柄が生み出す、飲食店という雰囲気ではない憩いの場というところが凄く良いと思います。」と話します。

みんなが楽しく過ごせる場所を目指す

オープンから1年が経ち、対馬の人たちから愛される存在に成長を続ける「お好み焼き食堂がやがや」店主の山本チカさんは、お店のこれからを「もっと対馬の人たちに知ってもらい、楽しく過ごせる場所にしていきたい。また、子育て世代が楽しめるイベントなどを開催して、店名に偽りなく「がやがやした場所」にしていきたいので、これからも頑張っていきたい」と話しています。対馬にない何かを持ち帰りたいという夢をかなえたチカさんは、これからも新たな夢に向かって、家族とともに走り続けます。



島暮らしを始めるお手伝いをしています！

毎年、100人を超える人たちが、対馬へ移住しています。対馬市では、多くの方に対馬の魅力を感じてもらい、移住先に対馬を選んでもらえるような取り組みと、移住される方、された方へのサポートを行っています。

引越経費支援

市外からの荷物の運搬にかかる経費



※補助対象経費の3分の2以内

上限
20万円

住宅借上初期費用支援

民間賃貸物件を借りる際の初期費用



※補助対象経費の一部

上限
5万円

子育て世帯移住支援

中学生以下の子どもを扶養している世帯



2万円
×中学生以下の
子どもの人数

住宅家賃支援

民間賃貸物件を借りる際の家賃



※家賃月額額の2分の1

上限
3万円
×3月分

奨学金返還支援補助金

高校・大学などにおける奨学金の返還額



年間上限
24万円
5年間まで

ふるさと就職奨励補助金

学校卒業後2年以内の方で島内企業に就職して1年以上経過した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 就労奨励支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の就労を支援

※通算6か月以上就業した方

10万円

ひとり親家庭移住支援補助金 自動車購入費支援

中学生以下の子どもを扶養するひとり親家庭の方の自動車購入を支援

※購入金額の2分の1

上限
30万円

結婚移住奨励補助金

婚姻届受理日前後1年以内に（夫婦または）夫婦のいずれかが市外から移住された方

5万円

移住の下見で来島する補助や、お試し住宅の提供、空き家バンクの整備なども行っています。



詳しくはこちら！

※各補助金には要件があります。詳しくはお問い合わせください



対馬ぐらしフェアを開催します

対馬への移住をPRするため、市内企業による就職面談、移住サポート、各種補助金などの紹介をおこないます。また対馬特産品の「物販スペース」もご用意しています。

日時：令和8年2月8日（日） 12:00～18:00

場所：JR博多シティ 10階大会議室（福岡市）

主催：対馬市・長崎県対馬振興局・対馬公共職業安定所

問い合わせ 地域づくり課内「しまぐらし応援室」 ☎0920(53)6111